

票議按

明治三十三年三月七日

校長

主任

合議



滋賀縣知事宛 校長

發給第六二號

進達書

一本校第十三年報 一冊

右及進達候也

滋賀縣第一中學校

滋賀縣第一中學校第十三年報 (昭和十三年)

目次

第一章

總校

設備

第二章

教員

資格

第三章

生徒

養成

滋賀縣第一中學校第十三年報

第四章

入學者

成績

第五章

學金

奨學

第六章

生徒

健康

第七章

學校

衛生

第八章

視察

及

第九章

生徒

生活

第十章

附

録

滋賀縣第一中學校第十三年報 (明治三十二年)

目次

第一章	學校、設備
第二章	教員、資格
第三章	生徒養成狀況
第四章	生徒學業、進否
第五章	入學者、關况
第六章	中途退學者關况
第七章	生徒、健康關况
第八章	學校、設置資格
第九章	視察及身體檢查狀況
第十章	生徒卒業後狀況
第十一章	生徒、增減

第十一章

學事統計表

第八節

學事統計表

第七節

學事統計表

第六節

學事統計表

第五節

學事統計表

第四節

學事統計表

第三節

學事統計表

第二節

學事統計表

第一章

學事統計表

第一章

學事統計表

第一章

學事統計表

第一章

學事統計表

目次

總覽 第一中學校 第三十三年 附錄 (附錄三十一)

第一章

學校設備

本校、設備中前年ト異ナルハ倫理科ハ從前各教室内ニテ教授セシラ九月ヨリ講堂ニ於テ第五年級以下第三年級ヲ一組、又第二年級第一年級ヲ一組、合併シ各組一週一回、倫理講義ヲ爲シ且講堂ヲ圖画教室兼用トシ元圖画教室ヲ職員及生徒、八良堂トナシ教員室ヲ校長室ニ合併シ元教員室ヲ應接室トナセリ

無補... 本校... 教諭... 職名... 俸給... 資格... 漢文... 英語... 理化... 倫理... 受持學科... 如左...

# 第二章

## 教員、資格

本年末本校教員、數、十六名、之、  
 內校長一名、教諭五名、俸給待遇三名  
 教諭心得七名、助教諭心得二名、囑託  
 教員一名、之、受持學科資格俸給等  
 左、如左、

受持學科	資格	俸給	職名	姓名	名族籍
倫理	四級俸	年十百四	校長	市瀬禎太郎	兵庫縣
英語、歷史	三級下俸	年八百四	教諭	今井賢二	東京府
理化、數學	五級上俸	年五百四	教諭	林久太郎	大阪府
英語	五級上俸	年五百四	教諭	青木義教	東京府
漢文	六級下俸	年四百四	教諭	服部章	兵庫縣

國語、漢文、修身、倫理科	七級下傳 月三十四	教諭 佐伯俊二	山形縣
博物、用墨画	月五十四	教諭心得 平瀬作五郎	福井縣
英語	月四十四	教諭心得 越山平三郎	東京府
數學、理化	月三十四	教諭心得 野澤愛三	鳥取縣
習字、自在画	月三十四	教諭心得 今永英足	熊本縣
數學	月三十四	教諭心得 曾田忠太	鳥取縣
歴史、地理	月三十四	教諭心得 佐藤鍾太郎	愛知縣
英語	月三十四	教諭心得 松井久吉	高知縣
体操	月三十四	助教諭心得 玉木敏彦	滋賀縣
体操	月三十四	助教諭心得 石田幸太郎	鳥取縣
國語	月四十四	嘱託教員 加部巖夫	鳥取縣

第二章

第三章

生徒養成ノ状況

過去一ケ年間、於ケル生徒養成ノ状況、関シテハ  
 養成ノ基礎トナルヘキ根本精神ハ前年度、異  
 ナルモノナキニ養成、関シテ施設セル方法、幾多  
 ノ改革ヲ行ヒタリ而シテ生徒一般ノ状況、概シテ  
 前年来、粗暴不遜、氣風漸次矯正サレテ  
 校規ヲ遵守シ師長ヲ尊敬スル等良風美俗  
 ニ化スルノ傾向ヲ来セリ

職員ノ更迭ハ生徒養成、影響ニ為スコト多  
 シ而シテ昨年四月新學年ヲ迎ヘテ舊ニ改  
 善ノ氣風ヲ養成スヘキノ機、際シ校長及英  
 語教員三人ノ退職アリシヨリ稍着安貞勤勉ノ

良風ニ向ハントセル生徒ノ性情ニ或ハ弛張アザサルカ  
ヲ憂ヘシガ幸ニシテ第一學期中ニ英語教員ノ缺  
ヲ補フヲ得夏期休暇中ニ校長ノ任命アリ而シテ  
其後職負ノ更迭ナカリシヨリ大ニ生徒ノ氣風行  
爲ヲ整肅スルヲ得タリ又新任校長ハ先ツ家族  
制ニ準ジテ學校全般ヲ指導スベキコトヲ告示シ第一  
學期以後自ラ倫理科講義ヲ擔當シ勅語ノ  
御旨意ニ準據シテ全校生徒ニ禮ニ守ルヘキ本分  
ヲ説キ專ラ實踐躬行ニ重ヲ置キ從テ該學科  
採点ハ單ニ平素ノ行為ヲ衡量シテ之ヲ定ム事  
ニセリ而シテ其實際ニ於ケル結果益良好ノ  
現象ヲ呈セリ

寄宿舍前學年未ニ於テ從來ノ積弊ソ一掃

センカ為メニ寄宿舍生徒一般ニ退舍ヲ命シ本學  
年ノ初メニ於テ新ニ寄宿舍ニ於テ監督スヘキ生  
徒ハ下級ヨリ漸次上級ニ及ホスコトシ先ツ第一學  
級生徒ニ入舍ヲ命シ更ニ第一學期末ニ於テ第二學期  
ヨリ第二學級生徒ニ入舍スヘキコトヲ命シタリレカ第二學期  
ノ初メニ於テ前命令ヲ改メ更ニ全般生徒ニ入舍スル  
コトヲ許可シ校長ハ自ラ生徒ニ入舍スヘキ勸告ヲ為セリ  
蓋シ校風振興ノ原動力トナルヘキ寄宿舍ハ又一二  
ノ學級生徒ノ獨占スヘキアラズト此當初ノ考案  
ヲ復シタルモノナリ以上ノ如ク過去一年間ノ寄宿  
舎制ハ屢次變更アリレモ昨年末ニ於テ五十餘名  
ノ生徒ヲ收容スルヲ得漸ク校風ノ原動力トナシ  
トス傾向アリ唯憾ムラハ建築不完全ニシテ動モスレ

ハ衛生上ノ惡評生徒又足ノ心ヲ動カレテ爲メニ  
入舎ヲ拒ムモノアリ

從來各學級ニハ生徒中ヨリ級長二名ヲ選定シ後  
級ノ總代トシテ生徒ノ側ヨリ級全般ノ整理ニ當ラ  
シメシカ動モスレバ級長ヲ輕シムルノ惡風アリハ十先  
ツ級長ヲ敬重スヘキコトヲ訓戒シ第二學期以後級長  
ノ任命ハ講堂ニ於テ監督教員ヲ立會セシメ校長  
嚴肅ニ之ヲ命ジ級長ニ自重心ヲ起シ職權ニヨリテ  
全級ニ臨ミムルノ實ヲ與ケシムルコトセリ又從來  
式典與テ行式ハ學校事業トシテ生徒多數ノ集  
會セル中國歌ヲ唱フルコトナカリシガ第二學期以後  
ハ式典與テ行ノ際ハ勿論其他ノ場合ニモ必ず  
國歌ヲ三唱シテ始終ヲ嚴肅ニシ又首席教諭

シテ校旗ヲ奉セシメ校旗ノ下ニ規律ア行  
動ヲナサシムルコトセリ以上級長任命國歌  
三唱及校旗ヲ奉スルコト皆形式ニ屬スルガ  
如キモノ而カモ精神次テ生徒ヲ教養スルニ  
ハ必須ノコトニシテ實際ノ結果亦良好ナ  
リキ

學科試驗ノ際偶々生徒ニ不正ノ行為ア  
ルハ一ハ監督ノ嚴重ナラサルニ因由スルモノナリ  
故ニ本學年ヨリハ一方ハ嚴シク其不心得  
ナルヲ訓戒シ又一方ニ試驗細則ヲ規定  
シ監督ヲ嚴シシ教テ不正ノ行為ヲナスノ  
間隙ナカラシメ以テ生徒ノ氣性姑息偷安  
ノ惡風ヲ絶チタリ



修學旅行一部ノ目的ハ協力一致ノ精神  
ヲ養成シ艱苦缺乏ニ堪ヘシムルノ素養ヲ  
爲スニアリ而シテ前年度ニ於テ級別ニ  
團隊ヲ組織シ異方面ノ地方ニ出向セシメシ  
ガ本學年ヨリハ以上ノ目的ヲ比較的完全ニ  
達センガ爲メニ全校生徒ヲ一團トシツナクト  
モ生徒現在數ノ三分ノ二以上ノ加列者ヲ  
得テ俱ニ艱苦缺乏ニ堪ヘシムルノ精神ヲ見ルニ  
非ラザレバ行ハザルコトセリ然ルニ不幸ニシテ  
少數ノ不足アリシヲ以テ本學年ニ於テハ  
断然行ハザルコトニ決セリ  
本校制定ノ服裝ハ往々勵行サレズ規律  
整頓ノ上ニ妨害ヲ受クルト多カリシガ

本學年第一學期ヨリ制服着用ノ外ハ登  
校ヲ許サズ以テ生徒ヲ以テ規律ノ下ニ行動  
セシムル端緒ヲ爲セリ

本學年ノ初メ英語教員三名同時ニ辭職  
シ該學科進步上ニ頓挫ヲ來セシガ一方  
ニ於テハ後任者ヲ選擇シテ一日モ補充シ  
速ニセンコトヲ努メ同時ニ出來得ル限リ他  
教員ヲシテ該學科ノ補缺授業ヲナサシメ  
以テ缺損ヲ少カラシメタリ且第一學期中  
各後任者アリテ缺ヲ補ヒシニ故幸ニ甚シク  
進步ヲ妨クルコトナキヲ得タリ其他ノ學科  
至リテハ略ホ豫定ノ進步ヲナスヲ得タリシモ  
明治三十年以來前年ニ至ルマテ教員ノ更  
迭頻敏系ナリシヲ以テ概シテ生徒學力

### 第四章 生徒學業ノ進否

本學年ノ初メ英語教員三名同時ニ辭職  
シ該學科進步上ニ頓挫ヲ來セシガ一方  
ニ於テハ後任者ヲ選擇シテ一日モ補充シ  
速ニセンコトヲ努メ同時ニ出來得ル限リ他  
教員ヲシテ該學科ノ補缺授業ヲナサシメ  
以テ缺損ヲ少カラシメタリ且第一學期中  
各後任者アリテ缺ヲ補ヒシニ故幸ニ甚シク  
進步ヲ妨クルコトナキヲ得タリ其他ノ學科  
至リテハ略ホ豫定ノ進步ヲナスヲ得タリシモ  
明治三十年以來前年ニ至ルマテ教員ノ更  
迭頻敏系ナリシヲ以テ概シテ生徒學力

於テ 稍相當以下ニアル、憾アリ之ヲ挽回セ  
 ニハ尚一層教授上其他ノコトニ研究シ要  
 スベキモノアルヲ信ズ

第四章

主幹 學業 進歩

第五章

入學者ニ關スル狀況

本年入學者ノ生徒ハ合計百五名  
 ニレテ其從前ノ教育年齡及種別  
 ハ左表ノ如シ

從前ノ教育

種別及年齢  
 一年級 二年級 三年級 四年級 五年級 合計

高等小學	二年級修了者	二	一	一	一	二
補習科	三年級修了者	二	一	一	一	二
高等小學	三年級修了者	三〇	一	一	一	三〇
高等小學	全科卒業者	三五	八	一	一	四四
私立學校		一	三	一	一	五
再入學者		一	一	一	一	二
合計		八九	一二	三	一	一〇五

第一級  
第二級  
第三級  
第四級  
合計

(10)

本校入學人数、性別、年齡、籍貫、學業、退學者、其事情及級別等、左之如シ

### 第六章

#### 半途退學者ニ関スル狀況

本年中途退學者ハ五十三名ニシテ其事情及級別等左之如シ

除名	七	一	一	一	一	一	三	第一級 第二級 第三級 第四級 第五級 合計
	一	一	一	一	一	一	八	
	二	一	一	二	二	一	六	
	一	一	一	一	一	一	八	
	一	一	一	一	一	一	一	
	一	一	一	一	一	一	一	
	四	二	二	一	五	一	二五	

其年計及... 本年中... 半金... 第六章

第七章

生徒、健康、關スル状況

本學年斗間、於ケル生徒、健康、關スル  
状況ヲ觀察スル、概シテ運動ヲ好ム、風アリ  
正課トシテ 歩兵操典、柔軟体操及普通  
体操、於テハ未ダ完全ノ結果トハ云ヒ難キモ  
稍々進歩、域ニ達セシモノト認め且校ノ内  
外ニ於ケル紀律モ從來ニ比シ 稍々興起セ  
テ見ル  
又外ニ本校職負生徒、設立スル 崇廣會  
於ケル水陸兩部運動ノ結果モ毫毛モ前  
學年年度ニ讓ル處ナシ要スル、本學年中生  
徒体育ノ結果トシテ 聊遺憾トスル處ナシ

只本學年第二學期ノ初メ（九月中旬頃）  
ヨリ今日ノ至ル迄脚氣患者頗ル多ク為リ  
ニ体操、欠課スルモノ亦少カラズ  
其他輕易ナル感冒眼疾等ハ往々患者  
フルモノヲ認ムト余氏直ニ校医ノ診療ニ依  
テ大患ニ陥ルモノナク概シテ皆健全ニ  
シテ發育ノ結果佳良ナリ  
本學年同、於テハ世間ノ動氣ノ盛ニ  
五穀ノ乏シク其ノ結果ニ至ルハ善前  
外見ノ懸念アリ、然レモ運動ノ盛ニ  
本學年同、於テハ世間ノ動氣ノ盛ニ  
五穀ノ乏シク其ノ結果ニ至ルハ善前  
外見ノ懸念アリ、然レモ運動ノ盛ニ

第十卷

一明治三十一年一月勅令第二號（其ノ基キ  
同年四月九日元東京大學醫部  
別課卒業者大日方隆治ニ本校医ヲ  
囑託セラル  
一學校医ニ視察上ノ結果ハ未ダ充分ナル  
調査ヲ經サルヲ以テ記述セズ  
一身體検査ノ狀況ニ  
春期体格検査上尤ニ留意スヘキハ齧歯  
尖骨推旁曲症、及近視眼トス其検査総  
人負二百六十三人ニ就テ右三症ヲ掲ケレバ

次表、如し

齒齒	131	132	263	50%
火月推考曲	75	188	263	28%
近視眼	30	233	263	11%

即ち百人、付齧止齒、五十、脊推考曲ハ二十ハ半近視眼ハ十一「パーセント」ニ當ルナリ  
 (甲)ハ家庭、注意ヲ要シ(乙)(丙)ハ机、腰掛等、改良ト脩繕時、体勢ニ注意ヲ要スルナリ

春期秋期兩度ノ体格検査中体重身長ヲ比較スルハ

春秋身長体重比較表

年齢	身長				体重			
	最大	平均	最小	増減	最大	平均	最小	増減
十一年	160	142	130	0	55.0	33.5	27.7	0
十二年	161	142	133	0	55.0	33.5	27.7	0
十三年	155	137	128	0	45.6	32.9	26.6	0
十四年	152	136	129	0	45.6	32.9	26.6	0

左ノ如シ





本表に依ん中、秋期、春期に比して身長は〇、一ツ体重は三、六ヲ増加セリ故に生徒、健康佳良にして体育ノ良成績ナルヲ知ルナリ

第一	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第二	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第三	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第四	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第五	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第六	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第七	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第八	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第九	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91
第十	150	150	0.11	5.91	5.00	0.91

試験の生徒、身体健康上、如何、關係ヲ及ボス者ナルヲ知ラレガ為メ明治三十三年第十四學年、第一學期即チ七月、第二學期即チ十二月、兩度ニ於テ試験直前及試験終了ノ日ニ生徒ノ体重ヲ秤量セリ其結果左ノ如シ

學年	検査前体重	試験後体重	増減	検査人負
第五年級	48.8	49.1	0.3	0.30
第四年級甲組	100.7.9	98.8.6	1.9	1.00
第四年級乙組	112.7.8	110.1.2	2.6	1.11
第三年級甲組	99.5.4	93.7.4	5.8	2.76
第三年級乙組	95.9.2	93.9.9	2.0	0.92

学年	組	身長	体重	割合
第二年度	甲組	1120.2	119.9	107.0
第二年度	乙組	1120.0	116.0	103.6
第一年度	甲組	1066.9	101.1	94.8
第一年度	乙組	1063.8	100.6	94.7
合計		990.2	97.9	97.8

之ヲ全生徒ノ平均スレハ一人ニ付〇.五一ヲ減セシ割合ナリ

### 第十四學年第二學期試驗時体重検査表

(男) 三月六日

学年	組	身長	体重	割合
第五年度		1080.5	146.6	135.7
第四年度	甲組	1161.5	113.9	97.9
第四年度	乙組	1139.5	116.3	102.1
第三年度	甲組	1143.5	117.7	102.9
第三年度	乙組	1180.6	116.4	98.6
第二年度	甲組	1133.9	117.4	103.5
第二年度	乙組	1155.7	116.6	100.9
第一年度	甲組	1090.0	118.9	108.9
第一年度	乙組	1073.7	117.9	109.8
合計		1179.8	116.0	106.9

之ヲ全生徒ノ平均スレハ一人ニ付〇.四一ヲ減セシ割合ナリ

前二表、依り考ふるに、試験、著しく生徒  
 の健康上、關係ヲ及ホス者ナシヲ知ルヘシ  
 殊、此二表、就テ考究スヘキハ、二表共、  
 第一、年級、於テ却テ体重ヲ増加シ、第二、年  
 級、至テ減少シ、始メ、第三、年級、第四、年級、  
 至テ極度、違シ、第五、年級、及テ稍々少  
 ナキヲ見ル之レ、後來充分、調査考究ヲ要  
 スル点ナリ

第一、年級、  
 第二、年級、  
 第三、年級、  
 第四、年級、  
 第五、年級、  
 第六、年級、  
 第七、年級、  
 第八、年級、  
 第九、年級、  
 第十、年級、  
 第十一、年級、  
 第十二、年級、  
 第十三、年級、  
 第十四、年級、  
 第十五、年級、  
 第十六、年級、  
 第十七、年級、  
 第十八、年級、  
 第十九、年級、  
 第二十、年級、  
 第二十一、年級、  
 第二十二、年級、  
 第二十三、年級、  
 第二十四、年級、  
 第二十五、年級、  
 第二十六、年級、  
 第二十七、年級、  
 第二十八、年級、  
 第二十九、年級、  
 第三十、年級、  
 第三十一、年級、  
 第三十二、年級、  
 第三十三、年級、  
 第三十四、年級、  
 第三十五、年級、  
 第三十六、年級、  
 第三十七、年級、  
 第三十八、年級、  
 第三十九、年級、  
 第四十、年級、  
 第四十一、年級、  
 第四十二、年級、  
 第四十三、年級、  
 第四十四、年級、  
 第四十五、年級、  
 第四十六、年級、  
 第四十七、年級、  
 第四十八、年級、  
 第四十九、年級、  
 第五十、年級、  
 第五十一、年級、  
 第五十二、年級、  
 第五十三、年級、  
 第五十四、年級、  
 第五十五、年級、  
 第五十六、年級、  
 第五十七、年級、  
 第五十八、年級、  
 第五十九、年級、  
 第六十、年級、  
 第六十一、年級、  
 第六十二、年級、  
 第六十三、年級、  
 第六十四、年級、  
 第六十五、年級、  
 第六十六、年級、  
 第六十七、年級、  
 第六十八、年級、  
 第六十九、年級、  
 第七十、年級、  
 第七十一、年級、  
 第七十二、年級、  
 第七十三、年級、  
 第七十四、年級、  
 第七十五、年級、  
 第七十六、年級、  
 第七十七、年級、  
 第七十八、年級、  
 第七十九、年級、  
 第八十、年級、  
 第八十一、年級、  
 第八十二、年級、  
 第八十三、年級、  
 第八十四、年級、  
 第八十五、年級、  
 第八十六、年級、  
 第八十七、年級、  
 第八十八、年級、  
 第八十九、年級、  
 第九十、年級、  
 第九十一、年級、  
 第九十二、年級、  
 第九十三、年級、  
 第九十四、年級、  
 第九十五、年級、  
 第九十六、年級、  
 第九十七、年級、  
 第九十八、年級、  
 第九十九、年級、  
 第一百、年級、

傳染病 本校生徒中本年度、於テハ、幸ニ

八種傳染病、罹リシ者一名モナカリシ然レモ

常ニ豫防上ノ注意ハ怠ラザリシ

三十二年夏期、於テ犬上郡多賀村部内、赤痢病、犬上郡甲良村部内、腸管結核病流行

ノ際ハ、一層豫防法ヲ嚴シ、九月十四日全校ニ大清潔法ヲ施行シ、且ツ生徒、後村落、近

接セサル様注意シ、與ヘタリ

秋期、至リ、神戸、大坂等ニペスト流行、際モ前同様、豫防法ヲ施行シ、且ツ十一月二十四日生徒一般、該病傳染ノ模様及ヒ、平常素豫防ノ方法ヲ示シ、且ツ流行地ニ旅行セサル様注意シ、又、五、六、月、頃、彦根地方、ト、ラ、ホ、ム

症流行し小學校生徒身体検査ノ結果後  
 病、多キヲ聞キタルノ以テ本校生徒間ニ此  
 流行傳播、微キヤ、疑ヒアリレテ七月  
 一日特、全生徒一般ニ眼疾検査ヲ施行  
 其結果次表、如シ

大正十三年七月一日調 生徒眼疾調査表  
 計 健康 欠席 全生徒

明治三十三年七月一日調 生徒眼疾調査表

級	病名	上ホム	水泡性 結膜炎	單結核 性	結膜粗 粒	結膜血 痕	計	健康	欠席	全生徒
第四年級	甲組	一	一	一	一	一	一	三	二	三
第四年級	乙組	一	三	一	三	一	一〇	一	二	二六
第三年級	甲組	一	一	一	一	一	一	三	二	二九
第三年級	乙組	一	三	一	三	一	一〇	一	四	二〇
第二年級	甲組	一	一	一	一	一	一	三	二	三六
第二年級	乙組	一	一	一	一	一	一	三	二	三六
第一年級	甲組	一	一	一	一	一	一	三	二	三六
第一年級	乙組	一	一	一	一	一	一	三	二	三六
計		二	六	一	一	一	七	三	九	二四九

然るに幸に眞性トウホム症にて傳染ノ恐レアル  
者ハ二名ニ過キサリシ該二人ハ嚴重ニ治療ヲ  
加ヘ豫防法、注意ヲナセシ然レモ本表ニ依  
ル片ハ曾テトウホム症アリシ學生級ニ於テ眼病  
ノ多キハ事實トシテ現レタル者、如シ即チ結  
膜粗糙症、結核痕症ハ曾テトウホム  
症、罹リタル生徒及明治三十一年度ニ於テ稍  
々本校ニトウホム一症流行ノ徴アリシ中ニ  
本校ニ臨時治療所ヲ設ケ治療シタル者ノ  
痕跡ナリ故ニ尚一層曾テトウホム症ノ豫防ニ  
就テハ嚴重ノ注意ヲ要スルナリ

明治三十一年五月一日附 世野眼病検査表

寄宿舎 本校寄宿舎、構造ノ不完全ナル  
既ニ定論アリ其床下ノ空氣、不流通ナル  
其土地、地下水高キニモ拘ハラス排水ノ不完  
全ニシテ濕氣多キ、其多キ濕氣ハ床板ノ空  
隙多キヲ以テ自由ニ室内ニ充滿スル等救急  
ニ違アラズ然レモ幸ニ此不健康ナル寄宿舎  
ニ固有ノ疾病ナカリシ然ルニ學生ノ尤モ可  
恐可忌脚氣症ハ夏時大坂京都地方ニ  
流行シ其餘波秋期ニ及ンデ此ノ病ニ母發  
生ニ適合セル寄宿舎ヲ觀ルニ學生ヲ害シ將ニ  
大事ニ至ラントセシ今テ本学年度ノ寄宿  
舎生徒ノ疾病ヲ記載スレバ左ノ如シ

滋賀縣第一中學校

安可山宿舎生徒疾病表

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	在籍生徒数
昭和十一年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十二年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十三年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十四年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十五年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十六年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十七年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十八年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和十九年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
昭和二十年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
合計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	144

本表：掲ぐる如く消化器病、胃加答見症尤モ多ク次ハ腸加答見症ニシテ六人アリ呼吸器病ハ感冒尤モ多ク次ハ气管炎及加答見症ニテ九名アリ然レモ肺結核症及肋膜炎等ハ一名モナカリシ血行器病、神経系病、五官器病、皮膚病ハ肋肉関節病ハ特種ノ疾病ナシ傳染系病類十四人中麻刺里亞一人ノシテ餘ハ皆脚氣症ナリ脚氣症ハ四月、一名アリタレモ他ニ發生シ微ナカリシ然レモ十月六日、二名ノ患者ツク發生シ尚漸次増加ノ模様アリ且ツ寄泊舎外ノ生徒、モ該病ニ罹ル者アリテ衝心ニ依リ

死亡せらる者ア、十月十九日及二十日兩日、  
 於テ寄宿舍舎全生徒、身体検査ヲ施行セ  
 リ其結果ハ次ノ如シ

但シ本検査ハ運動等ノ過勞ニ依ル心悸元  
 進筋痛浮腫等ヲサクル為メ、毎朝  
 受業前、於テ施行セリ

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が縦書きで記されている）

明治三十二年十月十九日二十日寄宿舍舎生徒脚氣症検査表

寄宿舍舎	姓	脈候	膝蓋	腕	下腿	心	足	脈
第一陣室	増田	元盛	壓痛	浮腫	元進			
	遠藤	元盛	壓痛	浮腫	元進			
	伊藤	元盛	壓痛	浮腫	元進			頻數便秘
	白井	元盛	壓痛	浮腫	元進			頻數
	速水	元盛	壓痛	浮腫	元進			
	妻多	元盛	壓痛	浮腫	元進			
第二陣室	清水	消失	壓痛	浮腫				
	村林	元盛	壓痛	浮腫				不整
	東路	元盛	壓痛	浮腫				不整
	中村							
	岡野	元盛	壓痛	浮腫				

（左側の縁に縦書きの文字列が一部見られる）

〇	三牛液	十月十六日二十日	〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	白井		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	草川		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	山本		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	大橋		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元盛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	壓痛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	浮腫		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	早川		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元盛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	壓痛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	浮腫		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元進		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元進		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十

〇	元盛	〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十	
〇	壓痛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	浮腫		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	大橋		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元盛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	壓痛		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	浮腫		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	浮腫		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元進		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元進		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
〇	元進		〇	肥田	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十

此書係第一中學本



第十條

川勝

元盛

聖痛

中井

元盛

浮腫

吉崎

浮腫

計四十人

右ノ如ク在宿者四十人中少しモ異状ナキハ僅  
カ拾三人ノミニシテ他ハ悉ク多少ノ変容ヲ  
呈シ得。脚氣症全寄宿生徒。蔓延セ  
ントスル徴候アルヲ以テ 鋭意之レガ防衛  
ヲナセリ

脚氣症。就テハ未ダ一定ノ學說ナク從テ  
之レガ豫防法モ一定セサルヲ以テ從來經驗上  
及理論上。付テ左ノ目的。於テ施行セリ  
（一）土地。乾燥スル事（瘴氣説）

（二）大小便所及ヒ土地ヲ消毒シ生水ヲ飲用セザ  
ル事（傳染説）

（三）青魚科、魚類、貝類、蝦類、蟹類  
等ヲ禁スル事（中毒説）

（四）麦飯ヲ食シ米飯ヲ禁ズル事（米飯中毒説  
及經驗説）

右ノ目的ヲ以テ十月二十五日ヨリ米飯ヲ麦  
飯及ノ副食物中ノ魚類其他ノ害アル者  
ヲ禁シ生水ノ飲用ヲ止メ沸煮水ヲ用ヒ  
當分劇動ヲ禁シ便所其他ヲ消毒シ尚  
十一月十七日十八日。於テ當時ベスト病者ノ神  
坂間。發生セルヲ以テ各房々土地ヲ消毒乾  
燥スルノ目的ヲ以テ寄宿舍全床下ニ石灰

撒布ヲ行ヒタリ

然ルニ其結果ハ良好ニシテ脚氣症トシテ集  
計ニ與ヒシハ僅々十三名ニシテ此十三名モ學業  
ヲ發シ又ハ歸郷シ命スルノ重症ニ陷ラザ  
リシ而シテ十二月ニ至リテハ新患者一名モ發生  
セザリシ

如斯結果ハ豫防法ノ効ト又々時候漸次寒  
冷ニ向ヒタルトニ依ルヘシ然リ其一時ノ効ニヨリ  
テ決シテ満足スヘカサルナリ昨秋ノ罹病者  
ハ此ノ最寒ニ至リテモ全治セサルモノアリ今夏  
ノ再發大ニ憂慮スヘキナリ之ヲ豫防スル其  
要一アルノミ只寄宿舍ヲシテ健康地ト為ス外  
アラサルナリ之レ校医ノ切ニ希望スル所ナリ

寄宿舍ニ屬スルニケル井水ヲ試験スルニ其  
成績左ノ如シ

(甲) 東井戸 (賄所ノ水)

一 格魯兒 僅微

一 硫酸 ○

一 硝酸 ○

一 亜硝酸 ○

一 安母尼亞 ○

一 鉄 痕跡

一 有機質 ○

一 水質 透明無色無臭

一 細菌數 試験セズ

(乙) 西井戸 (寄宿舍ノ水)

(乙) 西井戸 (洗面所ノ水)

一 格魯兒 僅微

一 硫酸 ○

一 硝酸 ○

一 亞硝酸 ○

一 字母片豆 ○

一 鉄 ○ 極シテ僅微

一 有機質 ○

一 水質 無色無臭僅微

一 細菌數 不透明

一 細菌數 試驗セズ

右之成績：依ルルハ兩井共ニ飲料水トナスコトヲ得ベシ殊ニ甲東井ヲ適當トス

### 第九章

生徒卒業後ノ狀況

本年、卒業生徒ハ三十九名ニシテ

卒業後ノ狀況 左ノ如シ

第一高等學校 一名

第三高等學校 五名

第四高等學校 六名

高等商業學校 三名

外國語學校 一名

士官候補生 五名

一斗志願兵志願 一名

官吏 二名

家事、従事 四名

未定

十一名

Handwritten text in vertical columns, likely a list or report, mostly illegible due to fading.

第十章

生徒、増減

本年末生徒、現員ハ三百四名ニシテ之ヲ前年末現員ニ比スルニ十三名ノ増ヲ見ル本年入學者五十三名卒業者ニシテ半途退學者五十三名卒業者三十九名ナリ今左ニ兩年末ニ於ケル學年別比較表ヲ掲ク

明治三十一年末 明治三十二年末 生徒現員數比較表

年別	級別	五	四	三	二	一	合計
三十一年		四〇	四三	五六	七四	七八	二九一
三十二年		三四	四八	五五	六八	九九	三〇四
比較	増減	六	一五	一	六	二一	一三

Vertical text on the far left edge of the page.

本校創立於明治二十年五月一日，至今已屆十一年。其間雖經種種困難，然幸蒙各界人士之熱心贊助，得以維持至今。茲將本校自創立以來之統計表，分年列表如下，以資參考。

第一、學生人數：自創立以來，學生人數逐年增加。第一年級有學生一百四十四名，第五年級有學生三百七十七名。

第二、教職員數：本校教職員數亦逐年增加。第一年級有教職員七名，第五年級有教職員二十七名。

第三、入學者數：自創立以來，入學者數逐年增加。第一年級有入學者一百四十四名，第五年級有入學者三百七十七名。

第四、畢業生數：自創立以來，畢業生數逐年增加。第一年級有畢業生一百四十四名，第五年級有畢業生三百七十七名。

第五、校務經費：本校校務經費逐年增加。第一年級有校務經費一百四十四元，第五年級有校務經費三百七十七元。

第六、校舍面積：本校校舍面積逐年增加。第一年級有校舍面積一百四十四坪，第五年級有校舍面積三百七十七坪。

第七、圖書設備：本校圖書設備逐年增加。第一年級有圖書設備一百四十四冊，第五年級有圖書設備三百七十七冊。

第八、體育設備：本校體育設備逐年增加。第一年級有體育設備一百四十四件，第五年級有體育設備三百七十七件。

第九、音樂設備：本校音樂設備逐年增加。第一年級有音樂設備一百四十四件，第五年級有音樂設備三百七十七件。

第十、美術設備：本校美術設備逐年增加。第一年級有美術設備一百四十四件，第五年級有美術設備三百七十七件。

第十一年

學事統計表

第十一章

創立年月日	本	科	明治二十年五月一日
學級	本	科	第一年級、第五年級、至八
事務員	一	名	書記
教員	二	名	教諭(兼任侍應)
	三	名	教諭(兼任侍應)
	七	名	助教(兼任侍應)
	一	名	助教(兼任侍應)
生徒	三	百	四十四名
入學者	三	百	四十四名
卒業	三	百	四十四名
業者	三	百	四十四名

滋賀縣立第一中學校職員年表

校長	正教員	舎監	書記
...	...	...	...
...	...	...	...

明治三十三年

縣立滋賀縣第一中學校職員年表

明治三十三年

種別	長		正教員		舎監		書記	
	男	女	男	女	男	女	男	女
一斗未滿	1	1	1	1	1	1	1	1
滿一斗	1	1	1	1	1	1	1	1
滿五年	1	1	1	1	1	1	1	1
滿一十年	1	1	1	1	1	1	1	1
滿十五年以上	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	6	6	6	6	6	6	6	6
總額	12		12		12		12	

年	月	日	姓名	籍貫	年齡	學歷	備註
一	九	一	陳				
一	九	二	陳				
一	九	三	陳				
一	九	四	陳				
一	九	五	陳				
一	九	六	陳				
一	九	七	陳				
一	九	八	陳				
一	九	九	陳				
一	九	十	陳				
一	九	十一	陳				
一	九	十二	陳				
一	九	十三	陳				
一	九	十四	陳				
一	九	十五	陳				
一	九	十六	陳				
一	九	十七	陳				
一	九	十八	陳				
一	九	十九	陳				
一	九	二十	陳				
一	九	二十一	陳				
一	九	二十二	陳				
一	九	二十三	陳				
一	九	二十四	陳				
一	九	二十五	陳				
一	九	二十六	陳				
一	九	二十七	陳				
一	九	二十八	陳				
一	九	二十九	陳				
一	九	三十	陳				
一	九	三十一	陳				

廣東省立第一師範學校

學校經費表

種別人員手當年額

縣立 一 六〇圓

深	立	一	六
井	傳	員	十
學	對	面	表

### 縣立滋賀縣第一中學校表

名	桶	位	置	町	郡	創立	學科	修業	總數	員	生	氏名
								年限	數	數	徒	
						明治	理科	五年	九	一	三	市瀬
						三年	科		五	五	八	禎
									九	一	三	太
									五	一	三	郎

滋賀縣第一中學校  
近江國大上郡  
彦根市入道